

中央大学学員会支部 中大技術士会

ニュースレターvol.32

会員の皆様へ

今年は台風の当たり年で、多くの台風が日本列島に上陸し甚大な災害をもたらしました。特に台風が殆ど通過することがなかった東北地方や北海道での災害は著しく、河川の氾濫や土砂崩れなど、これまでに経験のないほどの被害が発生しました。

また、最近日本列島に上陸する台風の特徴として、強さは「非常に強い」、「猛烈な」、大きさは「超大型」のものが多いたことが挙げられます。

気象庁気象研究所などを中心とした研究グループでは、非常に強い熱帯低気圧の出現数については、地球温暖化に伴って増加する傾向があるとされております。地球温暖化の抑制を考え、節電等、身近な取り組みからCO₂の削減に繋がる行動の必要性を感じております。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容とともに会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。

なお、活動計画にありますとおり、講演会、交歓会など様々な企画を計画しておりますので、皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

また、当会では引き続き、会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「技術士の存在をもっと活発に!」：幹事長 林知幸（上下水道部門）	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会報告	3 ページ
■ 部会報告	4 ページ
■ CO ₂ 環境対策技術研究会報告	7 ページ
活動計画	7 ページ
■ 活動計画全般	7 ページ
■ CO ₂ 環境対策技術研究会活動計画	8 ページ
エッセイ	8 ページ
■ 「モンゴルの気候が変わってしまった!地球温暖化?」：会長 内藤堅一さん（建設部門）	8 ページ
■ 「不動産の物件広告を見て、あれこれ想像を巡らすこと」：小峯健介さん（弁護士）	11 ページ
技術士第一次試験合格者から	12 ページ
■ 「技術士第一次試験を受験して」：神門 佳貴さん（建設部門）	12 ページ

■ 「技術士の存在をもっと活発に!」：幹事長 林知幸（上下水道部門）



▲7六歩、△3四歩、▲2六歩、△8四歩、▲2五歩、△8五歩、
緊張、静寂のなか、静かに駒をおく音が響いて戦いが始まった。

「中大技術士会」は、13年目の活動に入っています。理工学部を中心に、「科学技術と倫理」と「技術者倫理」の各講義へ講師を派遣、「技術士ガイダンス」「技術士模擬試験」「理工白門祭」、「ホームカミングデー」、「(理工学部教員を中心にした)講演会」、「各教員の研究成果を産業界に展開する橋渡し」などを行っている。学会関連では、中大法曹会と定期的に交流会を開催し、公認会計士会とは共通する課題での交流会を企画している。日本技術士会では、「大学技術士会連絡協議会」の創設時から世話役を務め、現在では全国25大学の組織に発展している。このように大学の内外で活動を拡大しているが、「中大技術士会」創設期は多くの苦労の連続であったことが古い資料に残されている。特に大学(理工学部)に「技術士」を認知してもらうことから始められていた。多くの会合を重ね、多くの理解者を増やしていき、「技術者倫理」の講義を大学と共同で立ち上げることに合意に達したと記録されている(2006年(平成18年)8月)。大学当局と「白門技術士会(当時会員数が100名に達していないためこのような組織名であった)」は、技術士が博士号と同等の資格であることを理解してもらい、次年度(2007年)5名の講師を派遣して今日に至っている。この当時の交渉に当たられた幹部の皆様のご尽力に感謝します。

冒頭に述べた各種活動と、一昨年、昨年と技術士第一次試験合格者で、大学在学生の合格者数が全国の大学で2年連続第1位になったことも、大学、理工学部、教授会、学会を含め「中大技術士会」の存在が大きくなっている。

先日、女性カメラマンが東日本大震災、熊本地震の被災地取材した報告を述べていた。その中で印象に残ることばが、「震災直後の福島市内が非常に明るかった」である。彼女が述べていたのは「福島の電気は、事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所の電気ではなく、東北電力からの電気を使っていた」というのである。昨今、全国で停止されていた「原子力発電所」の再稼働の動きが活発になっている。しかも、建設当時の約束であったはずの耐用年数を遙かに超えて動かそうとする新しい「理屈」を加えていることも不気味である。福島の事故以来、6回の「暑い夏」を経験してきた。夏が来る度、電力不足が心配されてきたが、国民の知恵と工夫で乗り切ってきたにもかかわらずである。この間、省エネルギー化された電気製品の提供も後押ししていることも事実である。無理矢理理屈をつけた。原子力発電所の再稼働に向けて、技術士側から「賛成」「反対」の声が聞こえてこないことは残念である。同じように11月の移転が決まっている東京都の豊洲市場の土壌汚染についても同様である。

これらは、マスコミ界の「技術士」の位置づけが低いこと、逆に政治、経済、マスコミへのアプローチの下手さが遠因になっていると考える。

技術士の社会へ向けた発言が多くなることを望んでいる。

▲7二飛成、△同玉、▲7一成香、△8二玉、▲8一成香、後手投了。(将棋名人戦第74期第1局より)

■ 幹事会報告

本会では、概ね月に一度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学員会役員室か会議室で行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事	日程	内容
平成 28 年度 第 2 回幹事会	5 月 18 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00 学員会 715 会議室	1. 会長挨拶 2. 各部会報告 (1) 総務部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時総会に関する報告があった。 ・ 例年に比べて参加者が少ない状況であることが報告された。 ・ 坂林副会長から、会員、新入会員向けに参加呼びかけの郵便を送っているという報告があった。 ・ 総会を 5 月 28 日(土)に行う。特別講演は、応用化学科の小松教授。 (2) 企画部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時総会の特別講演会に関する報告があった。 (3) 広報部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュースレターの次号以降の発行予定について報告があった。 (4) 大学支援部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次試験ガイダンスが 5 月 30 日から始まるので、幹事のみなさんの協力要請があった。 ・ 1 年生向けオリエンテーションが 7 月 4 日、5 日行われるのでこちらに対しても協力要請があった。 3. CO2 環境対策技術研究会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回研究会の予定案が示された。
平成 28 年度 第 3 回幹事会	6 月 20 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00 学員会 715 会議室	1. 会長挨拶 2. 各部会報告 (1) 総務部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術士ガイダンスが終了した。中大技術士会から延べ 50 名、学生スピーチが延べ 2 名であった。 ・ 1 年生向けオリエンテーションが 7 月 4 日、5 日行われる。 ・ 第 12 回定時総会が行われ、参加者は 40 名であった。坂林副会長の努力にもかかわらず、去年の 50 名に及ばなかった。 (2) 企画部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回以降の講演会企画について報告があった。 (3) 広報部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュースレター次号以降の発行予定について報告があった。 (4) 大学支援部会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「科学技術と倫理」の講義に岩瀬幹事と西川幹事を講師の講義が終了した。

行事	日程	内容
		<p>3.CO2環境対策技術研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月15日(金)、(株)環境管理センターで研究会を行う。 ・第7回報告会(総会)を9月17日(土)後楽園キャンパスで行う。 ・次回幹事会を9月5日(月)駿河台記念館で行う。見学会を金町浄水場を候補にしていたが、小学校の見学を優先しているため夏以降調整していく。

部会報告

○広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	メーリングリストおよびWeb名簿のメンテナンス実施
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.32作成、発行
HP新規掲載	① ニュースレターvol.31の掲載 ② 第12回中大技術士会定時総会の様子を掲載 ③ CO2環境対策技術研究会第26回研究会報告の掲載 ④ 会則の改訂(第12回定時総会承認)
その他	①入会申込みのページを作成。近日、運用に入る予定。
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様からの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。

○大学支援部会活動報告

項目	内容
「科学技術と倫理」講義	8月30日(火) 斎藤教授、深瀬TAの出席を得て、全体会議が行われた。終了後、懇親会も盛大に行われた。
	2016年度(平成28年度)も前年度と同様、2016年9月21日(水)～2017年1月19日(水)の間に5限5233号室で講義を行っている。
オリエンテーションの実施	学部1年生に技術士試験についてのオリエンテーションを7月4日(月)・5日(火)に実施した。
技術士第一次試験の模擬試験実施	9月24日(土)に131名の参加を得て実施した(詳細はP.5の「技術士第一次試験の模擬試験」を参照)。
他大学技術士会との連携等	7月16日(土)に中大、東京都市大、千葉工大の3大学による交流事前打合せを実施した。 出席者：中大・・・小林副会長、鈴木幹事、佐藤幹事 都市大学・・・小林会長、阿部幹事 千葉工大・・・町田副会長、久多羅幹事

項目	内容
	開催場所：日本技術士会暮出ビル 5 階会議室 議事内容： ① 今後、東工大、日大、早大を入れて大技連の活動方針を協議する。 ② 大技連の規約を作成する。 ③ 9 月中旬に準備会を開催する。 ④ 総会は 11 月第 2 月曜日に開催する。
「就職のてびき」原稿の校正	キャリア支援課から、2017 年度用の原稿依頼があり、第一次試験合格率等 2015 年度実績の係数に更新し、7 月 26 日送信した。
「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」	8 月 1 日、國生先生から「日本太陽エネルギー学会誌」論文投稿の報告があった。 査読の結果で、論文掲載となるかは不明。

技術士第一次試験の模擬試験

大学支援部会長 坂林和重（電気電子部門）

9 月 24 日(土)に実施した技術士第一次試験の模擬試験について、2015 年と比較して結果をまとめます。

1、実施内容

5534 教室

9 月 24 日（土） 11：00～13：00 準備
13：00～17：30 模擬試験
17：30～18：30 まとめその他

2、参加者

模擬試験参加者：

2016 年：**131 人**（申込者 242 人。1 名は、授業と重なり途中退席）

2015 年：**88 人**（申込者 122 人。1 名は、授業と重なり資料の受取のみ）

2014 年：99 人（申込者 147 人。適性科目の時 84 人で途中参加者や退席者あり）

2013 年：71 人

3、実施結果

合格点人数は、2015 年と比較すると 28 名の増加となりました。

	2016 年	2015 年	2014 年	2013 年
適性科目：	109 人	42 人	58 人	38 人
専門科目：	60 人	38 人	32 人	25 人
基礎科目：	97 人	60 人	52 人	48 人
3 科目 ：	52 人	24 人	22 人	14 人

4、2016年の本番試験予想

2015年の本試験合格者は、**117人**（模擬試験参加者**88人**の1.33倍）であったので2016年の本試験合格者は、**131人**の1.33倍として**174人**と予想されます。（12月15日（木）発表予定）

2015年の各大学成績は、下記でした。

No	大学名	2015年		2016年	
		申込者数	合格者数	申込者数	合格者数
1	中央大学	183人	117人	?	(174人)
2	日本大学	318人	94人	?	?
3	京都大学	78人	62人	?	?
4	早稲田大学	69人	55人	?	?
5	法政大学	85人	54人	?	?

5、その他

期待通り**174人**の合格者になった場合は、3年連続で国公立大学でTopとなります。

その場合、理工学部の有力な資格試験として、大学パンフレット等大学の広報資料へ掲載が可能と考えます。



■ CO2環境対策技術研究会報告

行事名	開催日程	活動概要
第 26 回研究会	H28 年 7 月 15 日 (金) JR 中央線「高尾」駅集合 説明・見学	見学先：(株) 環境管理センター 交流会：徳樹庵八王子北口店
H27 第 7 回幹事会	H28 年 7 月 21 日 (木) 18:30~20:00 中大後楽園校舎 5310 号室	第 26 回研究会 (環境管理センター) の報告 第 27 回研究会の企画 金町浄水場 平成 27 年度活動報告/会計報告 平成 28 年度活動計画/予算

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ 活動計画全般

○大学支援部会

大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
「科学技術と倫理」講義		2017 年度も要請があれば、ゲストスピーカーを派遣する予定。
技術士第一次試験受験ガイダンス	1 月~6 月	学部 2 年生と 3 年生等に技術士第一次試験の受験ガイダンスを行う予定。

○企画部会

企画部会活動計画

行事	日程	内容
ホームカミングデー	10 月 23 日 (日) 多摩キャンパス	「無料技術相談会」として出展する予定
中大技術士会 H28 第 2 回講演会	11 月 2 日 (水)	講師：理工学部 電気電子情報通信工学科 准教授 諸夔俊司 先生 会場：後楽園キャンパス 3907 教室
理工白門祭	11 月 4 日 (金)~6 日 (日) 後楽園キャンパス	「無料相談会」として出展する予定。
法曹会との交歓会	12 月 7 日 (水)	今年は技術士会が幹事担当のため、技術士会で企画する予定。

■ CO2環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
第7回報告会	H28年9月17日(土) 中央大学後樂園校舎 5号館5305室 交流会：風我	村上和夫会長：私たちの暮らしと化学物質—排泄医薬品と水環境について— 大石克嘉副会長：人工光合成の研究の動向 大石克嘉副会長：CO ₂ 吸収材の最新の研究動向
第27回研究会	H28年10月21日(金) JR常磐線「北柏」駅集合 説明・見学	見学先：手賀沼北千葉導水ビジターセンター 交流会：柏駅周辺で計画

上記以外にも、幹事会（ほぼ毎月開催）や多くの行事を開催します。

エッセイ

今回は、本会の会長である内藤堅一さん（建設部門）、弁護士 小峯健介さんのお二人より寄稿を頂きましたエッセイをお届けいたします。

■ 「モンゴルの気候が変わってしまった！地球温暖化？」：会長 内藤堅一さん（建設部門）

私は今年4回目のモンゴル乗馬ツアーに参加してきました。1回目は2009年、2回目は2012年で旅行記をニュースレターにエッセイとして掲載して貰いました。2013年に2年連続で行き、3年ぶりに今年2016年に乗馬ツアーに参加しました。乗馬についてはもう書くことはないのですが、3年ぶりのモンゴルの気候がかなり変わってしまったので、その辺の事情を少し書かせていただきます。

1. はじめに

今回は乗馬クラブの男性の仲間と2人で行きました。今まではこれに乗馬経験のない人たちを加えて7人のグループでツアーが実施されていましたが、今回はウランバートルの空港を出ると他には参加者がなく2人だけのツアーになりました。日本語の話せるガイドとドライバーの2名が乗用車で迎えに来てくれました。

現地の方が変わった1番目は昨年モンゴルでビジネス・サミットがあり、それに合わせて空港から片側3車線の立派な道路ができたということで、いつもとは違う道路を歩いてテルジのキャンプ地に向かいました。2番目はモンゴルが夏時間を採用しており、日本と時差がなくなっていることでした。飛行機の中で腕時計を時差分1時間遅らせたのですが、ガイドから話



を聞いて時計の針を 1 時間戻しました。3 年前には道路を全面的に直すというので、デコボコの仮設道路を走りましたが、今回は道路工事も終わっていて、乗用車(トヨタのプリウス：右ハンドルで日本仕様のまま使っている)で快適にテレルジのキャンプ村に 1 時間半ほどで到着しました。テレルジの日は遅く、22：00 に到着してもまだ明るいのです。暗くなるのは 22：30 頃です。

変わったことの 3 番目はゲルの中で、夜になっても薪ストーブを焚かなくなっていたことです。今回はこのことを書きたいと思って筆を執りました。

2. モンゴルの気候が変わってしまった！

4 泊 5 日の旅行者の経験ですが、4 回目なのでその差を実感しました。あまりに変わったモンゴルの天候にびっくりし、まさに地球温暖化の影響がここまで来ているのかという印象でした。モンゴルの夏は、雨の多い季節なのですが、今回は帰国の日の朝に雨が降っただけで後はカンカン照りの好天でした。

過去 3 回の経験では、モンゴルの夏は 1 日の中に四季があるということでした。昼は半袖シャツで乗馬しますが、夕方には長袖のジャージーを着て、ゲルの中では薪ストーブを焚いていました。朝 5 時になるとまたストーブに火をつけてくれるという状態で、乗馬で雨に濡れた時には昼からストーブをつけて貰い、冷えた体を温め、濡れたものをゲルの天井からロープを張って乾かすという経験をしていました。

今回は 22：30 頃に日没になっても暑くて、ストーブは 1 回も焚くことはありませんでした。朝には少し温度が下がり、夏物の長袖のジャージーを着て丁度良いか、寒い時にはこの上に薄地のジャンパーを着ていましたが、日が昇ると温度はどんどん上昇します。

直射日光は強く、半日の乗馬で顔や、腕まくりをした腕の部分は真っ赤に日焼けしました。今までは日焼け止めなど必要なかったのですが、ガイドに日焼け止めクリームを借りて顔や腕に塗りまくりました。半袖シャツは日焼けを考えて着ませんでした。こんな天候なら、長袖シャツと日焼け止めクリームが必需品です。また、水は、今回は 1 日にペットボトル 1 本の支給だったのですが、スポーツ飲料を持ち込めば良かったと思いました。モンゴルにはスポーツ飲料はないということです。

2 日目は弁当を持って 1 日行程のツアーに出かけました。この日は後から聞いた話ではウランバートルで気温 41 度ということでした。猛烈な日射ですが、乾燥しているので日本のような蒸し暑さはありませんが、ものすごくのどが渇きます。熱中症になりかけましたので、そのことは次項で書きます。

3. 猛烈な暑さと渴きにダウン

今回のツアーは経験者 2 名とガイド、馬主の 4 人でしたので、かなり早いペースで移動しました。通常は 1 時間移動すると給水休憩を 10 分程度取り、2 時間ほど移動して目的地に着くと、休憩してから同じ道を帰るという工程です。2 日目は弁当を持っての 1 日行程のツアーでした。山を越え、川を渡り、また山を越えて目的のチンギスハーンの大きな像のある所まで移動時間が片道 3 時間以上かかりました。



像の上まで上がって弁当を食べて帰りますが、帰りの最後では喉がカラカラに乾いてしまい、1時間の給水タイムが待たなくて30分で小休止して貰うほどになりました。

結果的にはこれが良かったのですが、キャンプに戻るとパタンキューでベッドに横になりました。心配した同行の田中さんに食堂の売店で冷えた水のペットボトルを買ってきてもらい、まず1本を飲みました。次に欲しいものはと問われ、岩塩とペットボトルをお願いして、塩を舐めながらもう1本水のペットボトルを飲んでやっと一心地つきました。

結局水のペットボトル2本半を飲んでやっと平常に戻りました。脱水状態だったのです。熱中症にはならなかったのですが、脱水症状でダウンしました。日差しの強い中を移動するには、塩飴とかスポーツ飲料が必要と改めて思いました。モンゴルにはこの手のものがないし、今回は日本から持っていくという準備は思い付きませんでした。

4. ホテルにもクーラーはなかった

3日間の乗馬を無事に終えて、4日目の夕方キャンプ地の奥テレルジからウランバートルに戻り、市内のバーベキュー店でお別れの食事会をしました。その後、日本人が経営しているというフラワーホテルに入ります。ここは前にも宿泊していますが、大きなお風呂があるので、我々日本人には有難いホテルです。風呂に入って、部屋に戻ると部屋が暑いのです。設備を調べてみると、暖房設備はあるのですが、クーラーはないのです。確かに夜にストーブを焚くような地域ですから、普段は、クーラーは必要ないのでしょう。2階の部屋だったので、窓を開けて寝ましたが、明け方雨が降るまで寝苦しい夜でした。出発の時間6時半にロビーに降りると、雨が降っており気温は15度ぐらいに下がっていました。ガイドもドライバーもジャンパーを着て迎えにきました。私も日本に帰るので、半袖シャツで出ましたが、すぐに薄地のジャンパーを出して羽織りました。これが本来の気候なのだと思います。とにかく暑くて、カンカン照りの4日間でした。

今年がたまたまの異常気象なのか、地球温暖化で気候が狂ってしまったのか分かりませんが、気候が激変することの無いよう願うものです。

■ 「不動産の物件広告を見て、あれこれ想像を巡らすこと」：小峯健介さん（弁護士）

本年2月の交流会の際に、担当幹事の方から「気楽に趣味の記事でも書いてみてはいかがですか？」と優しいお声がけをいただきましたので、お言葉に甘えて、気楽な気持ちで執筆してみました。読んでいただいた方にとって、多少なりとも息抜きとなりましたら幸いです。ちなみに、本ニュースレター2015年4月28日号に、私の自己紹介記事を掲載していただいておりますので、お時間のあるときにでもご一読いただけましたら嬉しいです。



「趣味は何ですか？」とのご質問をいただいたとき、「散歩や街歩きです」と答えることが多いのですが、ありふれた趣味では記事として面白くないのではとも思いましたので、少し変わったことについて書いてみることにしました。

「趣味」というほど大げさなものではないのですが、昔から、新聞折り込みチラシなどの不動産物件広告を見るのが好きでした。今でも好きです。

このようにいうと、不動産取引や不動産投資に興味があるかのように、あるいは不動産購入を考えているかのように誤解されてしまうかもしれませんが、決してそういったわけではありません。仕事上で不動産関係の案件を特に多く取り扱っているというわけでもありません。

ただ単に、不動産物件広告を見るのが好きなのです。

「何がどう好きなのか」を明確に説明することはなかなか難しいのですが、物件広告の間取りを見ながら、もしも自分がその物件に住むとしたらと仮定して、あれこれと想像（妄想？）を巡らせるのが好きです。自分が生活している姿を頭の中で勝手に思い描いて、物件内での生活動線を具体的にイメージして、「この部屋は〇〇に使用して、別のこの部屋は××に使用する。」「ここに△△を配置して、ここには□□を収納する。」という具合に、想像を膨らませます。いくつもの部屋があるような広い物件には広い物件としてのよさがあり懂れますが、狭い物件（狭小物件）には、広い物件とはまた違ったよさがあり、それはそれでまた想像が膨らみます。変わった間取りの物件などは、より一層想像力をかき立てられます。

新聞折り込みチラシ以外にも、駅などでよく無償配付されている住宅情報誌にも興味をひかれます。住宅情報誌は物件情報の宝庫であり、夜遅く仕事帰りの電車の中などで眺めていると、ちょっとした息抜きにもなります。

実際に自分が住むことになる物件を選ぶということになれば、物件広告を見る目も自ずと真剣にならざるを得ないと思いますが、私の場合には、実際に住むつもりは全くなく、あくまでも見て楽しむだけですので、とても気楽です。見るだけですので、費用も一切かかりません。お金のかからない、ささやかな楽しみの一つです。

とりとめのない文章となってしまいましたが、最後までお読みいただき、ありがとうございました。今回寄稿させていただいた趣味以外のことについては、また機会がありましたら、あらためて寄稿させていただきたいと思っております。

技術士第一次試験合格者から

建設部門の神門佳貴さんから、技術士第一次試験合格体験談をいただきました。第一次試験合格を目指している方にとって大変参考になります。ありがとうございます。

■ 「技術士第一次試験を受験して」：神門 佳貴さん（建設部門）

皆様はじめまして。理工学部都市環境学科、学部4年の神門と申します。学部3年の時に技術士第一次試験を建設部門で受験し、合格致しました。今回は合格体験談という貴重な機会を頂いたので、技術士試験の受験動機等をお話させていただきます。

1. 受験の動機

技術士第一次試験を受験しようと思った動機は3点あります。1点目として学部3年次の授業の中で、中大技術士会の方が来て技術士に関するガイダンスをしてくださる機会があり、その時に初めて「技術士」という資格を知りました。そこで「技術士」の価値を知ったことがきっかけとなりました。2点目として技術士第一次試験を受けることで自分の実力を測ることができると思ったからです。技術士試験は今までの大学生活で学んだ内容を総復習するような試験であるため合格することができれば今まで勉強してきた内容が習得できていると証明できます。3点目として時間的余裕のある学生のうちに一次試験を受験することで社会人になった際に技術士第二次試験に向けての準備を行いやすいと考えたからです。以上の3点を理由に技術士試験の受験を決断いたしました。

2. 試験に向けた準備

技術士第一次試験を受験することを決心してからは、夏休みからの2ヶ月間集中的に学習しました。私の場合は、まず問題の傾向をつかむために過去の問題を解くようにしました。そこで見えてきた傾向として技術士第一次試験は過去と類似した問題が多く出題されていることがわかったため、直近7年間の過去問題をひたすら解きわからないところを参考書や大学で習ったことをまとめたノートなどを見返し解けるまで繰り返し学習しました。

また、本番何週間か前に中大技術士会の方が模擬試験を実施して下さったのでこの模擬試験にも参加いたしました。この模擬試験は本番を想定して過去の問題から今年も出るかもしれない問題を抜粋して作られているため、時間配分や自分がどの程度できているかなど本番に向けて最終確認する良い機会となりました。

3. 受験を終えての感想

受験会場には社会人の方も多くおり、合格発表が技術士のHPに掲載されるまでは若干不安な気持ちもありましたが、合格がわかった時の達成感と喜びは一入でした。技術士第一次試験では土木工学のほぼすべての分野を満遍なく学習したことにより、個々の分野の内容を復習するだけでなくそれぞれのつながりを確認することができ、より土木工学全体の理解向上に役に立ちました。

4. 今後の抱負

私は現在、「技術者倫理」という講義において技術者は多くの人々から信頼されることが重要であることを認識させられています。そのためにも、将来的には「技術士」という資格を取得して社会で活躍したいと考えています。また、二次試験を受験する際は実務経験が必要になるため、まだ受験をするまでには時間があります。この期間中にさらに幅広い分野の知識を吸収し、応用していくことでたくさんの経験を積み「技術士」の資格取得に向け精進していきたいと考えています。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2016年10月号 中大技術士会 広報部会 発行